テーマ	***樋口一葉を中心とする 明治の文学・思潮の研究***	適用分野	樋口一葉の人と文学、 近代文学作品を読み直す
研究名称	樋口一葉とその時、斎藤緑雨とその時代、 与謝野鉄幹晶子研究	氏名所属	塚本章子　教授 文学部　日本語日本文学科

内容

●特徴

文学作品を、その作品が書かれた時代の言葉や、思潮の中に置きなおす。そのとき、これまで見逃されていた、その作品の持つ新しさや問題提起が浮かび上がってくる。そのことにより、これまで作品の謎とされていた箇所が解明されたり、これまであまり高く評価されてこなかった作家や作品が再発見されたりする。

●研究内容

樋口一葉の文学は、尾崎紅葉、幸田露伴、森鷗外、北村透谷といった同時代の様々な小説、評論、翻訳などの言葉を取り込みながら、それらを独自のものに作り替えることによって、新たな世界を生み出している。そしてこの一葉の生み出した世界は、斎藤緑雨や島崎藤村といった同時代や後世の文学へと継承されていくのである。

斎藤緑雨は、一葉を最初に評価した批評家の一人であり、一葉と親しかった人物であるが、単なる皮肉屋と見られ、現在ではあまり評価されていない。だが、一葉側から緑雨を見るとき、緑雨の新たな面が見えてくる。緑雨の言葉は時代と深く切り結んでおり、日露戦争前後の状況と激しく格闘するものとなっている。緑雨の晩年を同時代の言葉や思潮のなかで再検討し、緑雨の再評価を試みる。

樋口一葉

斎藤緑雨

（写真は、左『新潮日本文学アルバム樋口一葉』、右『明治文学全集斎藤緑雨集』筑摩書房より）

キーワード	樋口一葉、斎藤緑雨、与謝野晶子、与謝野鉄幹、明治文学、近代文学
連携方法	■ 講演　■ 研修　■ 研究相談　■ 学術調査　■ コメンテート　■ 共同研究